



ほけんだより

2025年1月発行
学校法人織田学園
おだ認定こども園

感染症情報確認・園への体調連絡は
『れんらくアプリ』でお願いします

暖かい日と寒い日の気温差が大きい季節です。この時期、手足が冷たく唇の色が紫色のようになったお子さんが相談に来る事があります。体を温めながら、しばらく手足・顔のマッサージをしていると、元気に部屋に戻ります。

成長途中の子どもは、自分の体が温まるように筋肉を動かし、血圧や自律神経の調節をすることも、日々の生活の中で経験しながら覚えていきます。保育室内は定期的に換気を行い、質温湿度を調節していますが、晴れた日は積極的にテラスや園庭で遊び、近隣の公園にも出かけて体を動かします。汗をかき日も重ね着する日もあるため、着替えは調節しやすく、お子さんが選べるよう複数準備してくださいね。

新しい年も、よく食べ・よく寝て・よく遊ぶ、健康で笑顔の1年になりますように。

◎12月の感染症：インフルエンザA型、胃腸炎、手足口病、他に診断がつかない発熱・咳等

おねがい

◎登園前の体調確認

登園前には、園児本人と保護者の方の検温と、顔色や食欲・排せつ・咳や鼻水症状の有無などを『お子さんと一緒に』確認しましょう。ご家庭での様子や連絡先の変更は『連絡アプリ』でお知らせ下さい。

◎検温の方法について

非接触型の体温計は皮膚の表面温度を測定します。冬は測定値が低く出て、正しく測れない場合があります。脇の下で測る体温計を備えておくようにしましょう。園でも発熱時は10分間の実測をします。発熱後、解熱して24時間は、ご家庭で体調観察をお願いします。

◎バス利用の方へ

登園後、保育中に発熱・嘔吐・吐き気がある等、体調不良の症状がある時は、安全のため帰りのバス利用ができません。保護者の方にご相談のうえ、お迎えに切り替えをお願いします。



解熱剤、正しく使って

感染症流行期はインフルエンザやコロナを疑い、発熱直後多くは経過観察になります。心配ですが、解熱剤を適切に使いながら様子を見ましょう。熱以外に呼吸の状態や、目が合わずけいれんしている等、様子がおかしいと感じた時は、ためらわず119番通報をしてください。

どんなときに使う？

熱で寝つけない、飲んだり食べたりできないときに飲ませましょう。

ただ単に熱があるからと飲ませるのではなく、「睡眠をとって体力を回復させるため」「水分をとって脱水を防ぐため」など、必要なときに使いましょう。



熱が下がれば大丈夫？

効果が切れたらまた熱が上がります。解熱の判断は24時間以上熱が出ないときです。

解熱剤の効果で熱が下がるのは5～6時間ほどで、効果が切れたらまた熱が上がることがほとんどです。引き続き様子を見て、静かに過ごさせましょう。解熱剤で熱を下げて無理をさせると、かえって病気が長引くおそれがあります。

